

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

明和五年内山真龍に送る所

七月七日に人々と七くさの歌をよみ侍る
いかなりし 故はしらねど 思ひやる
年に一夜の 星のえにしを

賀茂真淵

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶びを申し上げます。

長い期間休会しておりました「賀茂真淵翁遺徳顕彰会」は皆様のお力添えによりまして、昨年再スタートすることができました。先般六月一日には総会も開催され、昨年度一年間の事業（決算）報告ならびに平成二十九年度の事業計画（予算）が承認されました。

本年度の主な事業活動の内容としましては、引き続き会員募集を重点におこなうこと、又境内整備の一環として①本殿階段の修理、②東側の眺望確保、③雄踏街道から灯籠坂入口付近の案内看板、④電柱への案内看板（記念館との共同）等、出席者からも今後取組むべき貴重なご意見をいただきました。

総会後には「賀茂真淵記念館」の小山晴久学芸員による真淵についてのお話があり、真淵の国学に対する思いを多少なりとも共有できたのではないかと思います。

縣居神社は郷土の偉人であり、日本の国学発展に多大な貢献をされました賀茂真淵を祀る唯一の神社であります。しかし整備や会の運営に関しては厳しい状況にあり、より多くの方々のご理解とご賛同が必要であることを痛感致しております。「星の縁（えにし）」という七夕の歌にあるように、皆様とのお縁を大切に、微力ではありますが今後も啓蒙のため尽力してまいります。

会員の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総会議案及び承認事項

- 一 会員入会・継続状況
- 二 平成二十八年度 事業および会計報告
- 三 会則改正および理事承認
- 四 平成二十九年度 事業計画および収支予算

※会則につきましてはホームページをご覧ください。



賀茂真淵翁を知ろう (4) 真淵の生誕②

母方 天王の竹山家

竹山家の系譜

多くの人材を輩出する。

「ピルマの堅琴」作者の竹山道雄。戦前の岡田良平（文相）・一木喜徳郎（内相他）兄弟等と、総じて文教関係にすぐれていた。

父方 伊場の岡部家

賀茂神社

真淵の父は賀茂神社の神官。賀茂神社は、文永十一年（一二七四）蒙古襲来の年、創建。御祭神は賀茂別雷神（かもわけいかづちのおおかみ）と賀茂建角身命（かもたけつぬみのみこと）の二神。

京都上賀茂神社の神職・賀茂師重の長女筑前局が、宮中に長年奉仕した巧により、敷智郡岡部郷に五百石の封土を賜り、その地に京都上賀茂神社の分霊を勧請して創建。局の後裔が山城（京都）から来住し、郷名を姓とし「岡部」を名乗るようになった。

岡部家の系譜

岡部家は、古くから庄屋職であり、神官であって常に村の指導的な立場で浜松藩の独礼庄屋（藩主に、年頭などに単独にお目見えできる格式）とした名流。真淵は家系を大事にし、遠い先祖である勅選歌人賀茂成介（一〇三四〜八二）にふれ、誇りとした。

岡部家中興の祖・岡部政定は、三方原の戦いにおいて犀ヶ崖の軍功で陣刀と具足を拝領、北遠の犬居城攻めの巧によって、戦乱で二百石に落ちていた領地を五百石にもどし、加増もあつたとされる。

岡部家六十一代の岡部謙は、伊勢

竹山家と徳川家康

真淵の母の実家は、長上郡天王村の竹山孫左衛門茂家。同家の初代は室町時代末期に始まる高森（鷹森）太郎左衛門重治とされ、現在、十六代を数える名流。江戸時代には岡部家と同様に独礼庄屋として地域のリーダーを勤めた。

天王村の屋敷は年中鳥が集まるような大きな竹藪に囲まれ、徳川家康も鷹狩りでこの邸に寄り「竹山、竹山」と呼んだことから、鷹森姓を竹山姓に改めたとされる。家康は、前庭の梅の木に鷹狩りの鷹を止まらせた。この老梅は鷹宿梅（おうしゅくばい）として大切に育てられた。

神宮少宮司・熱田神宮宮司等を歴任した文化人・歌人。岡部家の蔵書一万二千冊余を縣居文庫に寄贈したが戦災で焼失。現在の岡部和弘（賀茂神社及び井伊谷宮宮司）は六十四代。先代殿夫と共に戦後の井伊谷宮を今日の姿に成した。



京都 上賀茂神社と下鴨神社

下鴨神社（正式には賀茂御祖神社）の御祭神は、賀茂建角身命と玉依姫命（たまよりひめのみこと）の二神。賀茂建角身命は古代京都をひらかれた神とされる。玉依姫命の祖父にあたる。神武天皇の東征の折、八咫鳥（やたがらす）となって天皇を導かれたという伝承が日本書紀等に記されている。玉依姫にも神話がある。玉依姫が鴨川で禊ぎをしていると川上より丹塗矢が流れてきた。この矢を床に祀り休まれたところ御子を授かった。一度は雷鳴と共に天に昇った御子は、天より神として神山（こうやま）に御降臨された。この御子が、上賀茂神社（正式には賀茂別雷神社）の御祭神、賀茂別雷神である。

鷹宿梅と真淵

竹山家には「梅系図」と箱書きのある掛け軸が伝来していて、白い花をつけた梅の古木の絵と、真淵の歌が書かれている。

「かけまくもかしこき、下つ毛野の国ふたら山に鎮りませる大神の、むかし遠津淡海の国曳馬の城を敷ます時、御狩の折々、竹山が家の梅こそおもしろけれど御馬寄せせ給ひ、薫り栄ゆる枝に御鷹をすえ置かせまうして、御きこしをし、めでまししなり。

今ぞ百まりに多くの年を経ぬれど、その梅のしづ枝さし次て春の常盤にほひ、此家もたくひろく栄へ伝れる事おのれしも母としのよすがもて、辱御故よしを伝へうけたまはり、よろこほひて古き調をうたふ」

大君の みそてふれけん

梅かえの 今もかをるか

あはれそのはな

（大君の御袖触れけん梅が枝の今も薫るかあわれ其の花）

七夕に大きな願いを

月遅れです。多数ご参加ください。

◎8月7日（月）

午後2時〜

縣居神社 拜殿

講話・真淵が遊んだ虫たち

「講師・細田昭博先生」

トンボ・虫等を長年研究。

三〇〇年前の生誕は？

◎8月4日（金）〜7日（月）

七夕かざり・神社参道

8月1日（火）から神社社務所で受付



昨年、参道を飾った笹竹

ご連絡は…

TEL/FAX

053-453-3401

年間スケジュール

- 平成29年10月30日 縣居神社 例大祭
- 平成30年1月1日 縣居神社 新年祭
- 平成30年3月4日 賀茂真淵生誕祭



平左衛門家に伝来の掛軸。家康ゆかりの鷹宿梅をうたった賀茂真淵の歌が書かれている。